

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	膵全摘術後栄養状態に関する検討			
2. 対象患者	当科で膵癌に対し膵全摘術を実施された患者様			
3. 対象となる期間	2010年1月1日 ~ 2018年4月30日			
4. 実施診療科等	消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科			
5. 研究責任者	氏名	小笠原 宏一	所属	消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	膵癌に対する膵全摘術は癌を完全に除去するために行われる治療方法です。しかし消化酵素を含む膵液や血糖をコントロールするインスリンの分泌の低下につながり、手術後の栄養状態に影響いたします。そのため、術前の栄養状態や生活自立度などを総合的に判断し、手術を行ってきました。近年では消化酵素製剤やインスリン製剤の進歩により、膵全摘術後の患者様の影響を小さくする補助治療が進んでおります。そこで近年の膵臓手術の術後の患者様の栄養状態を評価することで、膵全摘術の安全性を検討し、膵癌患者様の手術の可能性の拡大や予後の向上に寄与することができます。			
8. 研究の目的	当科で膵癌に対し膵全摘術を施行された患者様を対象とし、術後の栄養状態を検討することで、膵全摘術の安全性や妥当性を評価することを目的とします。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	診療録から、病歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、各種検査所見、画像所見、手術所見、術式、合併症などの手術関連情報、術後経過、予後などの情報を収集し解析を行います。			
10. 個人情報の保護	患者様個人が特定される情報を収集することはありません。研究結果は学会等で報告されますが、個人が特定される情報を公開することはありません。拒否の申し出があった場合は研究対象から除外しデータを削除いたします。ただし匿名化の上で解析済みの場合や研究結果公表済みはデータを修正することはできませんのでご了承願います。			
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では、(株)ヤクルト本社、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、大鵬薬品工業(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。			
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 小笠原 宏一			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080